

STEP 3

育ちと学びがつながる

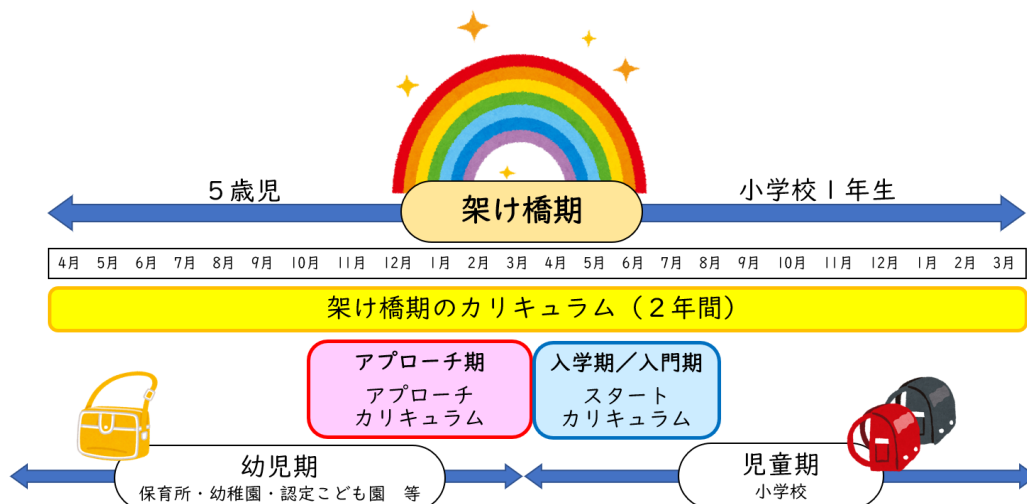
保幼小のつながりを意識して「日々の教育及び保育」を行っていくことで、子どもの育ちと学びをつなげていきましょう。 詳しくはこちら↓



架け橋期のカリキュラムとは何ですか？
アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムとの違いは？



A1. 大きく違うのはカリキュラムの期間や作成者です。



カリキュラム	期間	作成者	内容
架け橋期	5歳児～小学校1年生の2年間	園と小学校が協働	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を手掛かりとし、育成をめざす資質・能力を視野に入れたもの。
アプローチ	就学前 5～6か月間が目安	園	就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習に適應できるようにするとともに、遊びや生活から得た経験を生かして学習や生活に意欲的に取り組んでいけるように工夫したもの。
スタート	入学後 4か月間が目安	小学校	幼児期の遊びや生活を通じた育ちと学びを基盤として主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出し、円滑に移行していくためのもの。



架け橋期のカリキュラムを作成すると、どんなよいことがありますか？

A2. 保幼小が共通の視点を持ち、協働して作成することにより、子どもの育ちと学びの連続が保障されます。また、計画的な実践とともに、教育及び保育を見直すことが習慣になります。さらに、担当が変わっても一貫性のある教育活動を行うことができます。



行政として、架け橋期のカリキュラムの作成や改善のため、園や小学校へ、どのように働きかけたらよいのでしょうか？

A3. 教育委員会や市町の保育主管課は、小学校区にカリキュラム開発会議の設置を促してみましよう。会議自体は学校運営協議会や園・校長連絡会等、既存のものを利用します。



どんな視点で話し合えばよいですか？

A4. まずは子どもたちの実際の姿から、めざす子ども像について話し合ってみましよう。めざす子ども像が決まると、カリキュラムに表すものが整理されるとともに、カリキュラムに特色が出て、作成の意義が増します。視点についてはリーフレット「はじめのいっぽ」を参考にしてみてください。

詳しくはこちら→



話し合いの際は何を参考にしたらよいですか？

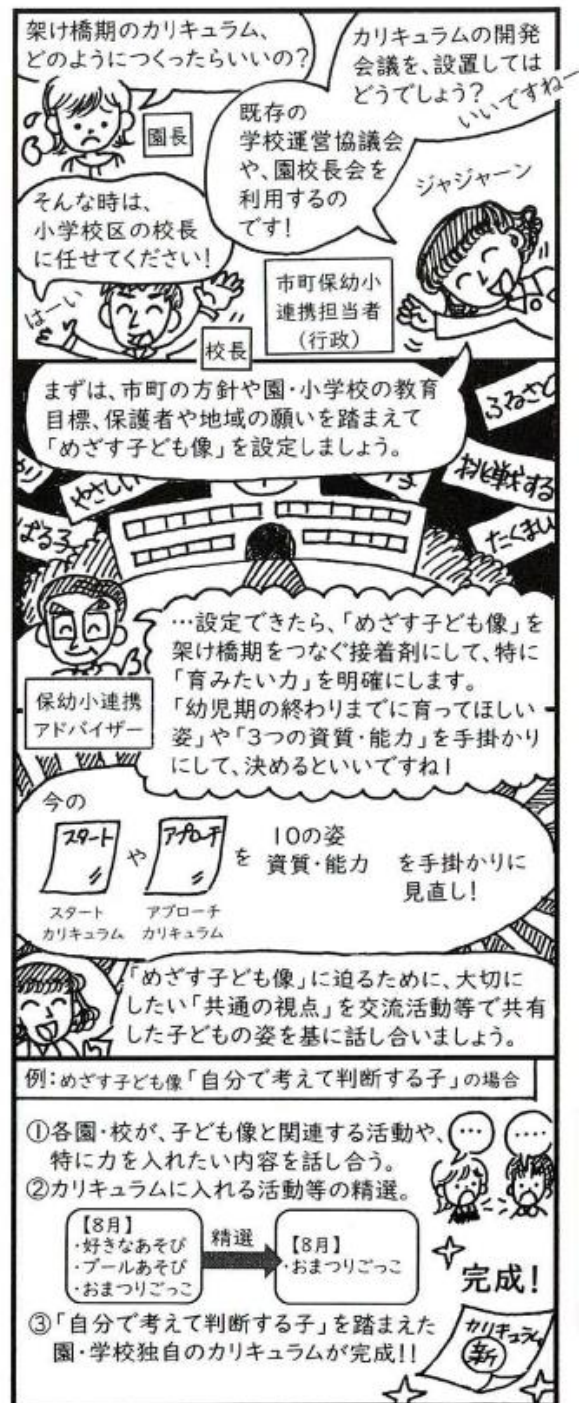
A5. 例① 市町の教育目標や園・学校目標、保育・教育方針がわかるもの（保育全体計画やランドデザイン等）…めざす子ども像について話し合うときに役立ちます。

例② アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム…育ちや学びのつながりや指導上の配慮事項を考えるのに役立ちます。



地域や保護者への啓発を進めるためには？

A6. 「保幼小連携」で行ったこととそのよさを様々な方法でどんどん発信ましよう。例えば、園・学校だよりや懇談会のときなどに伝えることができます。また、就学時健康診断の際に、保護者向けに幼児教育と小学校教育のつながりに関する講演会を開いている小学校もあります。



STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

教育及び保育の共有 つながる学び

「めざす子ども像」

「育みたい資質・能力」を視点に
つながろう！

- ①執筆者の所属：小学校
- ②児童数：600人
- ③連携園数：十数園（今回は1園）
- ④連携の現状：年に2回協議会を実施しています。交流は年に1～2回程度です。
- ⑤執筆者の一言：子どもたちの姿を語り合うことで先生同士がつながりましょう！

1 ねらい

- 幼児教育及び保育と小学校教育のめざす資質・能力のつながりを知る。
- 保育・授業参観での子どもたちの姿や園・小学校での取組を共有しながら「どのような子どもを育てたいか」を参加者で話し合うことにより、互いの教育及び保育で大切にしていることを共有しながら「めざす子ども像」を焦点化していく。
- 共通理解した「めざす子ども像」をもとに、重点的に育みたい資質・能力について話し合うことを通して、それぞれの教育及び保育に生かす。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

園長、主任、☆5歳児クラス担任等

管理職の先生に助言をいただけると心強いですね。

校長・教頭などの管理職、☆保幼小連携の担当者、1年生担任、養護教諭
☆教務主任等

小学校

3 時期

入学から1学期終了までに
(事例は11月だが、入学した子どもたちの様子を参観した後にできるとよい。)



4 話合いの流れ

(1) **保育・授業参観を行った場合** (保育・授業の後に50分)

保育・授業参観を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を視点に互いの育ちや学びが繋がっていると思うところを出し合ったり、自分の園・小学校での取組や日々大切にしていることを紹介し合ったりする。

(例) ・園での保育が小学校の学びにつながっている、と感じたところは？
・園・小学校それぞれの取組の共通点は？

保育・授業参観を行わない場合 (各園・校で5～10分で説明した後に50分)

それぞれの園・小学校の保育・教育目標などを踏まえながら、自分の園・小学校での取組や日々大切にしていることを共有する。

(2) それぞれの取組や日々大切にしていることの中から、共通する「めざす子ども像」を焦点化していく。(20分)

詳しくはこちら→

写真や映像、文字資料などがあると伝わりやすいです。

STEP 3

(3) 「めざす子ども像」が焦点化されてきたら、それを実現するために「育みたい資質・能力」を具体化していき、園・小学校の先生が

①既に取り組んでいること

②新しくできそうな取組

を考えて紹介していく。(30分)

(例) ・子どもがのびのびと自分の思いを表現できる場を意識的に設定する。

・園・小学校それぞれが発達に応じた「振り返り」をしていく。

・子どもの意欲・関心が高まるような環境設定や保育や授業の導入の工夫をする。

・自分たちで考えて思いを実現していく場の設定を工夫する。 など

5 話し合いを充実させるためのポイント

同僚性が生まれるように、自己紹介の工夫もしてみたいですね。

○ 架け橋期にめざす子ども像を共有する大事な機会なので、時間的な余裕をもつことが大事。できるだけ、いろいろな園・小学校の教職員が意見を言いやすいような、温かい雰囲気づくりをする。

○ 写真や映像、文字資料などで子どもの様子を紹介し、子どものよさを話し合い、昨年度、園がどのようなことに重点を置いて保育を行っていたのかを共有すると、それぞれの教育及び保育に共通点が見え、今後も支援をつなげていこうと再認識できる。

○ それぞれの保育計画や年間カリキュラム、指導計画などを持ち寄り、園・小学校で「日々大切にしていること」を紹介し合いながら「めざす子ども像」「(重点的に育てたい)資質・能力」について、つながっているところを共有していく。

教育及び保育で大切にしていることを共有し合います。

○ 1つの小学校に様々な園から入学してくる状況がある中、その年に集まった園と小学校のカリキュラムや大事にしていることを話し合いながら、「めざす子ども像」を焦点化していき、その姿に近付けるために、何をしていくかが明確化されるとよい。小学校のカリキュラムに合わせるのではなく、「それぞれ実践から共通するところを探していく」というイメージをもつことが大切である。

○ 話し合いに参加した教職員が復命を確実に行うことが大切。「めざす子ども像」実現のために、自分たちの園・小学校で

①既に取り組んでいること

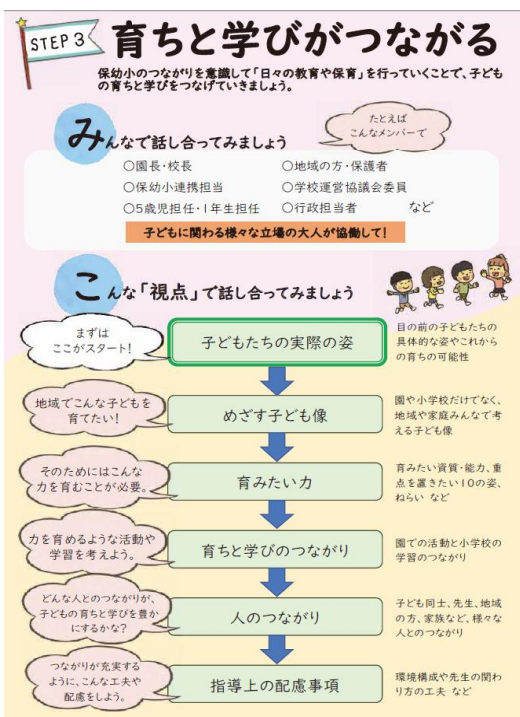
②(無理せず)新しくできそうな取組

は何かを話し合い、教育及び保育に生かす。今の実践できていることを見付け、深めていこうとする方向性が大事。(カリキュラムの見直しも行えるとよい。)



STEP 3

6 話し合いの実際



話し合いは、山口県乳幼児の育ちと学び支援センター作成リーフレットの「はじめのいっぽ」のSTEP3「育ちと学びがにつながる」のページを参考にしながら実施しました。(11月上旬)

まず左下の【流れ】(1)にもあるように、写真などを見せながら、2学期の園の保育や1年生の学習の取組について説明し合いました。園では「選ぶこと」を大切にしたい運動会への取組を中心とした説明があり、1年生の学習では生活科を中心に他教科とつなげた学習をしていることを説明しました。写真などで様子が伝わり、互いが大切にしている教育及び保育への理解につながっていきます。その中で、どちらも「振り返り」を大事にしていることが話題になりました。

【参加メンバー】

- 園** 園長 保育主任
各年齢担当3名
- 小学校** 校長 教務主任
1年生担任3名
保幼小連携担当者

【流れ】

- 校長先生より
- 自己紹介
- (1)子どもたちの様子・今までの教育及び保育を紹介し合う (子どもたちの実際の姿)
- (2)「めざす子ども像」を焦点化する
- (3)子ども像を実現するため「育みたい力」について話し合ったり、力を育てるために既に行っていることを見つたりする
- 振り返り
- 園長先生より

次に(2)で「めざす子ども像(○)」とそれをめざすために必要な「育みたい力(・)」は何かを話し合いました。

その中で次のような内容が出てきました。

- 「自分の思いを伝えることができる子ども」
・話す・聞く・待つ力 ・言葉の力
・自分の気持ちを自覚する力
- 「思いやりがあり友達のことを理解しようとする子」
「相手の立場や気持ちを想像して行動できる子」
・コミュニケーション能力 ・気付く力
- 「最後までやり抜く子」
・自分の行動に責任をもつ力
・自分で考え、選び、粘り強くやり遂げる力 など

「めざす子ども像」は、中学校区の学校・地域連携カリキュラムにも重なる部分があり、つながりを感じました。協議をしながら互いがめざしている子ども像が焦点化され、

◎自分が経験したことや考えたことをのびのびと伝え合うことができる子

◎自分たちの課題に向かって友達と最後まで粘り強く取り組もうとする子

が挙がってきました。

STEP 3

さらに(3)で、ここから、「育みたい力」を育てるために、今の教育及び保育で既に行っていることはないか、互いに探し出していきました。

	園	小学校
思いを伝える力を付けるために	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話の中で話すことへの安心感をもつことができるようにする。 ・子ども同士をつなぐために集会でインタビューやクイズをする。 ・言葉を引き出すために、話す場を設けたり問いかけたりする。 ・自分の思いを「みんな」が伝える場を設け、それを聞く仲間を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを言語化する支援を行う。 ・自分の思いを表現する場の設定を意識的に行う。 ・交流活動を仕組む。 ・ペア活動を取り入れる。 ・子どもの言葉にこだわって、問い返しをしていき、思いを表出することができるようにする。
思いやりの気持ちをもてるようにするために	<ul style="list-style-type: none"> ・よいことをしたらすぐその場で褒める。 ・思いを受け止め、共感する。 ・子どもを知ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちをクラス全体で共有する。 ・よいことの価値付けを行う。 ・自分との違いに気づき、相手のことを受け止められるようにする。
最後までやりぬく力、主体的に学ぶ姿を育てるために	<ul style="list-style-type: none"> ・「選ぶこと」を大切にする。 ・手本を見せることで見通しをもち、自信をもって活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動を行う。(大切にする) ・自信をもって活動するためにルーティン化して見通しをもてるようにする。

この話し合いの中から「めざす子ども像」と「育みたい力」「今の教育及び保育で実践していること」などを整理し、園と小学校で日々の教育及び保育やカリキュラムづくりに生かしていくこと、「新しく取り組みそうなこと」は園や小学校に持ち帰って話し合おうということになりました。

【話し合いを振り返って】

園の先生と小学校の先生と一緒に話し合う機会を設定し、互いの教育及び保育の様子を知ることができました。特に、「選ぶことを大切にしている」という園の保育は、小学校の先生にとって、「はっ」とする考え方だったように思います。子どもが身に付けていく内容がある中で、学び方にいろいろな選択の場面を設定するのは教科によって難しいかもしれませんが、ぜひ取り入れていきたいと感じました。「相手を知ることが自分たちの仕事を高める」ということに気付いた時間でした。



【アンケートの設問項目】

- 1 互いの実践を聞いて
 - ①よいなと思ったこと
 - ②生かしたいと思ったこと
- 2 話し合いをして改めて考えたこと
 - ①めざす子ども像
 - ②育みたい力
- 3 ①②を実現するのに今取り組んでいることは？
- 4 感想

また、「めざす子ども像」「育みたい力」「今の教育及び保育で実践していること」を一緒に話し合うことによって、より「つながり」を意識することができました。

話し合い後のアンケートでは、互いの理解に加え、「自分たちの教育及び保育について立ち止まって考えることができたこと」が先生方の学びとなっていたようです。

来年度からは、小学校区を中心に連携の会議を行います。今回は1校1園でしたが、これからいろいろな園の先生方とこのような話し合いをして、さらに互いのことを知り、園・小学校の教育及び保育に生かせるような連携の在り方を探していきたいと思えます。

STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

遊びから教科へ

つながりを見つける

園での活動と小学校の学習のつながり

- ①執筆者の所属：認定こども園
- ②園児数：240人
- ③連携園・校：1校1園
- ④連携の現状：年度初めに計画を立て、9回の会議や研修・交流を行っています。
- ⑤執筆者の一言：会議を重ねるごとに先生同士も仲良くなり、相互理解が深まります。

1 ねらい

- 小学校及び園の実態を知り、円滑な接続に向けての子どもの育ちを考える。
- 対話を通して園・小学校の指導法の違いや同じところ、環境設定などについて相互理解を図る。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

保育所：園長、副主任
幼稚園：園長、主任、☆保幼小連携の担当者、
幼児クラス担任（6人）

校長、1年生担任（4人）

小学校

3 時期

夏休み期間中

小学校の授業参観をした後などに
つながりについて共有する時間をもつのもよいかもかもしれません！

4 話合いの流れ

- (1) 幼児期の遊びが小学校教育のどのような場面につながるのか、小学校教育の生活科の内容に着目し、共通点を見つける。
- (2) 小学校側は、ラーニングストーリー※(子どもの育ちの記録)、園側は教科書を見て気付いたことや印象に残ったことを話す。
- (3) 先生の関わり方や言葉かけ、環境設定について共有する。

グループ協議は4～5人の少人数で行うと、質問もしやすく対話が多くなります。

5 話合いを充実させるためのポイント

- グループ協議の時間を十分にとり、対話を通して参加者一人ひとりのいろいろな感じ方や気付きを話し合う。
- 「すごい」「おもしろい」「よいな」とその時に思ったこと・感じたことを伝え合う。
- 園の遊びの中で発見したことや工夫したことが、小学校の教科においてどのように子どもの思考に変化が見られるのか、つながりを見つける。

※ ラーニングストーリーとは

ニュージーランド発祥の、子ども一人ひとりの姿を見取り、観察と記録による「子ども理解」の方法のこと。

5つの視点(興味をもっていること、夢中になっていること、挑戦していること、気持ちを表現していること、自分の役割を果たしていること)をもとに、エピソードと写真を添えて作成する。実践園が採用している。




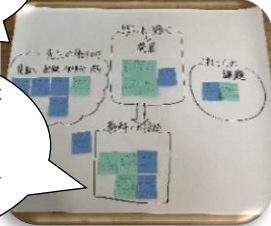
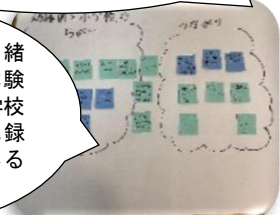

STEP 3

6 話し合いの実際

(1) グループ協議【60分】

- 18人が4つのグループに分かれ、「対話」を通して互いの理解を深めました。
- 園での遊び(植物との関わり)を記録したラーニングストーリーと小学校の生活科の教科書を見て気付いたこと・印象に残ったことを付箋に書いて話し合いました。

(2) 各グループの発表【各グループ3分】

海グループ	川グループ
<p>「すごい!」「おもしろい!」と思ったことを共有しました。その中で園から小学校へのつながりと同じところについて話し合いました。</p> <p>園生活が一人ひとりの思いに添った活動になっていて「すごい!」と感動した。</p> <p>幼児期の遊びの体験の中で触る・見る・嗅いでみることに長けているので多くの気付きが出てくる。得た知識が小学校でも生かされる。</p> 	<p>興味・関心からの発展とその時の先生の働きかけについて共有し、教科への接続のつながりとして話し合いました。</p> <p>園では子どもの活動と共に先生の声掛けや対話も記録されている。</p> <p>園) アサガオを育てる体験から色水遊びへ発展。 小) 観察記録から比べる・見付ける・例えるレベルアップ。</p> 
山グループ	空グループ
<p>園と小学校の環境づくりの違いや表現の仕方について話し合いました。</p> <p>園生活は自由で題材もたくさん用意されていて、選ぶことができる環境があるからこそ楽しさがある。</p> <p>幼児期のみんなで一緒に植物に触れ合う体験があるからこそ、小学校で一人一鉢を育て記録する中で友達と比べることができる。</p> 	<p>「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の「3つの柱」でグループ分けをして話し合いました。</p> <p>幼児期は遊びの中で学んでいくので興味関心が多くなると思ったが全ての面でつながりを感じた。</p> <p>幼児期の学びや気付きを深めていくには子ども同士の会話やつぶやき・先生の声掛けが大事であることが分かった。</p> 

- 6月の接続会議の中で、共にアサガオを育てているという共通点を見付け、遊びの中での育て方と授業での育て方のつながりを知りたいと興味関心が高まり、研修テーマを設定しました。
- 教科書には仕掛けがあり、子どもたちのつぶやきも書かれているので、図鑑みたいで楽しいという意見が多くありました。今回は小学校の生活科のみを取り上げましたが、いろいろな気付きがあり、幼児期の体験を小学校の体験につなげ、さらに新しい知識を加えて整理することで興味が深まることにつながると思います。言葉で表す場合は国語科、数で表す場合は算数科、形で表す場合は図画工作科と、視点の当て方によって全教科へのつながりに気付くことができました。
- 園と小学校の「違うところ」ではなく「同じところ」を多く認識できたことは互いにとって学びの深い時間になりました。どんな気付き、印象でもよいので、思ったことをみんなで共有し、相互理解していく時間も大切だと教えていただきました。今後は、5歳児クラス・1年生の担任だけでなく、園全体・小学校全体の教職員で非認知能力の育ちの大切さについて理解を深め、情報共有していくことが必要だと思えます。

STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

PDCAで交流活動を充実させよう 同僚性

一緒に振り返りをしませんか？ その日のうちに

地域性を生かした人とのつながり

- ①執筆者の所属：幼稚園
- ②園児数：32人
- ③連携校数：1校
- ④連携の現状：6年以上
- ⑤執筆者の一言：小学校と隣接している立地のもと、園児が小学校の複数学年と交流を行い、教職員同士もつながりを深めています。

1 ねらい

- 園・小学校それぞれのねらいの共有や振り返りを行い、次年度に向けての課題について話し合うことで継続的なPDCAサイクル*を位置付ける。
- 園の先生は子どもの遊びが小学校の学習のどこにつながっていくか、小学校の先生は就学前後の子どもの育ちを捉え、それぞれの指導の工夫に生かすことができるようにする。
- 直接会って話し合うことで、人と人とのつながりを大切にしたい協議の場となるようにする。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

☆5歳児クラス担任

☆1年生担任

小学校

3 時期

交流活動前後で行うとよい。

短時間でコンパクトに話し合うことが続けていくポイントです。

4 話し合いの流れ

- (1) 交流実施前にそれぞれのねらいやめあての共有を行う。(15分)
- (2) 交流実施後に、写真や映像など具体的な子どもの姿を基に、ねらいや、評価の視点で子どもを捉えながら一緒に振り返りを行う。次年度に向けての課題等を話し合い、記録を残しておく。(20分)

5 話し合いを充実させるためのポイント

- 互いの園・小学校の子どもを見合うことで相互理解を図り、それぞれのねらいを基に相手の教育及び保育の内容や指導方法を理解し共有できるようにする。
- 交流活動が行われたその日のうちに必ず振り返りの時間をもつ。
- 年度末の合同会議では管理職を含めた話し合いの場をもつ。

※ 交流活動における「PDCAサイクル」とは

- P…Plan(計画) 計画の作成→日程の決定、ねらいやめあてを共有する。
- D…Do(実行) →交流活動を実施する。
- C…Check(評価) →園、小学校の先生が子どもの姿を基に共通の視点で振り返りを行う。
- A…Action(改善) →改善し次年度につなげる。

互いに見えていなかった園児や児童の姿を共有することができます！

この会議内で、次年度の日程を決めています！

STEP 3

6 話合いの実際

(1) 交流活動に当たって

本園は小学校と隣接した立地であることや、長年交流活動が継続的に行われていることなど、先生も子どもも行き来がしやすいという地域性があります。誰が5歳児クラス担任になってもPDCAサイクルを生かした交流ができるようにしていきたいと考え、今年度の交流活動の一部を考えてみました。



(2) Plan (計画)

交流活動の1週間前を目安に互いのねらい、評価の視点などについて共有する場を設け、以下の2点について共通理解を図りました。(5歳児クラス担任・1年生担任)

園児のねらい ○友達と一緒に秋まつりを楽しむ ○作られている物に興味をもって、遊びに参加する

児童のねらい、評価の視点について ○主体性 ○相手軸 ○協力

(3) Do (実行) ~ Check (評価)

交流活動を行った後(子どもの降園後)に集まって、一緒に振り返りを行いました。

5歳児クラス担任の振り返り	1年生担任の振り返り
<p>2つの視点で子どもと振り返りを行った。 視点①どのコーナーが楽しかったか。 視点②園にはないものがあつたか。</p> <p>印象に残っているコーナーについては、具体的にどのようなところにおもしろさを感じたかを、自分なりに言葉で伝えることができていた。また、写真を見て振り返りを行うことで、イメージしやすくなった子どももいた。</p> <p>この時期の生活科の授業の中に、園生活の中で経験する様々な遊びが繋がっていると感じた。また、どのコーナーの児童も対園児という意識で関わっていた。</p>	<p>対園児という面で、相手に喜んでもらうことについてもう少し伝えてきたかったが、児童たちが臨機応変に対応できていて感心する場面もあった。</p> <p>対園児だけでなく、グループ内での友達同士の関わりも含めて考えていた。グループにリードできる子がいると、児童に頼ってしまうことが多かったように思う。</p> <p>集めた自然物でいかに遊ぶか、園で工夫しながら遊ぶ経験をしている園児に対して、児童がどのような遊びを考え、表現していくかが必要だと感じた。</p>

(4) Action (改善)

昨年度は取組の時期が早すぎて自然物が集まらなかったため、今年度は、昨年度より1週間遅らせての開催でした。今年度に行った時期の開催がちょうどよいのではないかとことで、来年度に引き継ぐことを確認しました。

(5) 園で話し合った、交流活動の後、その日のうちに直接会って話し合うことのメリット

- 次の日の保育にすぐ生かすことができ、子どもとの関わりに有効である。
- 子どもの姿を話し合うことで、互いに見えていなかった子どもの姿を共有することができる。
- 話合いの中で、先生たちが互いを知ることができ、同僚性が生まれる。

STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

市の取組

「カリキュラムの見直し・改善」を
視点として話し合おう

- ①執筆者の所属：教育委員会
- ②参加者：55人
- ③市内の園、小学校数：24園、11校
- ④連携の現状：平成21年度から年1回、市が研修会を主催しています。
- ⑤執筆者の一言：行政が保育所・幼稚園・認定こども園等と小学校とのパイプ役を務め、円滑な接続を行っています。

1 ねらい

- 5歳児が、スムーズに小学校生活へ適応していけるようにするために、保育所・幼稚園・認定こども園等と小学校が、幼児教育や小学校教育の内容、家庭・地域における取組について相互に理解し、円滑な接続を図る。
- これまで園生活で経験してきたことや培ってきた力など、就学前の子どもの育ちを小学校の教職員が共有し、就学後の指導の工夫に生かす。[詳しくはこちら→](#)
- 小学校において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を踏まえた指導を行うことにより幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を紡いだ途切れのない教育活動を実施する。



2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

- 園(24園) 園長、主任、5歳児クラス担任者等(計29人)
- 小学校(11校) 校長・教頭などの管理職及び保幼小連携の担当者等(計22人)
- 行政機関 ☆教育委員会担当者、保育主管課担当者(計4人)

3 時期

早めに設定することで、顔合わせができ、連携する保幼小で年間の見通しをもつことができます！

市として行う研修会の開催時期：6月 各園・校での協議：夏休み等

4 研修会の流れ

- (1) 市の所管説明(10分) [詳しくはこちら→](#)
- (2) 外部講師による講演(幼児教育アドバイザーや大学の講師等の活用)(50分)
- (3) 交流校区(園と小学校で交流活動を行っている校区)別に協議(35分)
(カリキュラムの見直し・改善、教職員同士の研修や情報交換、園児と児童の交流等)



5 研修会・協議会を充実させるためのポイント

- 担当者が代わってもこれまでの取組状況が分かり、改善の見通しがもてるようにするため、市として統一のカリキュラムの型を使用する。
- 保幼小のつながりを系統的に整理するため、カリキュラムの型をシート1枚にまとめる。
- 円滑な移行に重点を置くため、5歳児11月から1年生7月までの連携カリキュラム(リンクリンクカリキュラムと呼ぶ)とする。
- 育てたい子ども像を共有するため、関係機関(子育て支援課・学校教育課)との連携を図る。
- 学校によっては、複数の園との連携を必要とする場合があることを考慮して、各園と小学校のカリキュラムの作成になることもある。

STEP 3

6 研修会の実際

(1) 市の所管説明(カリキュラム作成の意義やねらい等の確認)

ア 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領に記載されている円滑な連携・接続について

イ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の概要、連携の必要性について
〈園と小学校の教職員での共通理解事項〉

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
- 到達すべき目標ではないこと(5歳児終了時までには100%実現を求めるものでないこと)
- 小学校入学当初においては、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと



課題や現場のニーズ等を考慮して内容を決めています！

(2) 外部講師による講演

これまで「教育課程と教育・保育の実践」や「支援を必要とする子どもの豊かな学びのために」等と題して講演を行っています。

内容例:具体的な園児の活動の様子から見取る「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等(講演後に行う、昨年度作成したカリキュラムの見直し・改善の際に参考)

(3) 交流校区別における話し合い

ア 今年度の1年生の様子やアプローチカリキュラム、スタートカリキュラム、週案などの教育課程の情報共有

イ 今年度のカリキュラムについて見直し、今後の計画についての話し合い(P.39参照)

期待する子どもの姿について

- 5歳児については、子どもの実態と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」と照らし合わせ、特に重点を置きたいもの
- 1年生については、1学期間は、児童が学校生活に慣れるための期間として考え、生活科を軸として学習を進めていき、幼児期とのつながりを考えたもの

カリキュラムの作成

園生活から小学校の生活へとつながるようなイメージや、幼児期の遊びを通した総合的な学びが各教科の学びへとつながるイメージ、人・もの・こととどのような関わりをもって成長していくかという視点

園と小学校の教職員から、園・小学校でのめあてや活動等を1枚の紙面にまとめた「カリキュラム」を計画・活用してみて、主に以下のような意見がありました。

- 園で身に付けた力を伸ばせるようなスタートカリキュラムを考えていきたい。
- 互いのめあて、具体的な活動内容が記載されているので方向性がよく分かる。そこに向けての活動に取り組みやすい。
- リンクカリキュラムにより、活動のつながりが可視化され、全教職員の共通理解を図ることができた。
- 地域の小学校へ共に入学するという意識をもち、校区内それぞれの園の共通目標や課題を確認しながら就学前の教育や保育を行うことができる。

STEP 3

参考資料

山陽小野田市 ○○○○園・△△小学校 リンク リンク カリキュラム (2023.6.17作成)

共通の視点項目	5歳児 11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
期待する子どもの姿	「お互いを認め合い、集団の中で同じ目的に向かって協力したり、小学校入学を喜び、自分の力」					「お互いを認め合い、1学期間は、児童が学校生活に慣れるための準備期間として考え、生活小学校生」			
自立的な生活態度	○園外保育() ・道路の歩き方	○ありがとうそうじ() ・そうきんの使い方		○ありがとうそうじ() ・ほうきの使い方	○園外保育() ・危険な場所 ○卒園式の練習()	○学級活動() ・気持ちのよいあいさつ ・学校のきまり ・衛生的なトイレの使い方		○給食:自分に合った量を調節し、時間内に食べる。()	○行動:チャイムの合図や時計の針で、黙って行動する。()
人とかわる力	○発表会の練習() ・鉄棒 ・マット	○ゆうびんごっこしよう	○お正月遊び() ・かるた ・すごろく	○卒園制作() ・カレンダーづくり	○園外保育() ・カレンダーづくり	○生活科:学校探検() ・あいさつ ・自己紹介 ・2年生とグループ活	○1年生を迎える会()	○交通安全教室 ・地域のおじいさん やおばあさんとの 触れ合い()	○縦割り班で遊び、善悪の判断を身に付ける。() ○登校:集合時刻を守り、きまりを守って集団登校する。()
豊かな感性	○発表会の練習() ○秋となかよし【小学生と交流活動】() ・秋さがし ・おもちゃづくり	○冬の自然を楽しむ()		○卒業制作() ・壁画づくり		○生活科:学校探検() ・2年生とグループ活動 ・学校で働く人について知ること		○生活科:なつとなかよし() ・夏を感じる遊び	○道徳の時間で心を育て、心を磨く。() ○生活科:「育てよう、わたしの好きな花」飼ってみたいわたしのペット()
学ぶ意欲	○発表会の練習() ・合奏 ・スピーチ	○ゆうびんごっこしよう()	○朝のスピーチタイム()	○お正月遊び() ・かるた ・すごろく	○学校ごっこしよう()	○本の読み聞かせ()	○算数科:計算選手権()	○ミニ発表会() ・歌 ・スピーチ ・計算 ・ひらがな	○国語科:しりとりにゲーム()
家庭や地域との連携	■アンケートの実施 ■小学校教諭の説明会	■小学校生活を意識した絵本の紹介	■懇談会(希望者)	■0時まで登園 ■自分の持ち物を自分でそろえる。		■下校時刻のお知らせ ■次の日の持ち物を自分でそろえる。 ■進捗表の配布	■学級懇談会	■親子活動	■1学期個人懇談
幼保小の連携	□学校授業参観 就学時検診	☆ふれあい交流会(年長・2年)	□授業参観(小学校教員参観)	□新入生1日入学 ☆交通教室(年長・5年)	□情報交換会	□授業参観(園教員参観) □情報交換会		☆児童と園児の交流会	□情報交換会

- 活動をとおして身につけさせたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどれにあたるのか分かるように明記する。
- 「幼保小連携」の項目において、子ども同士の交流については、☆印で明記する。
- 令和5年10月末までに学校教育課に提出する。

令和5年度の交流校区別の取組について

校区名 _____ 記入者氏名 _____

【1 リンクリンクカリキュラムの見直し・修正について】

【2 職員同士の研修や情報交換等】

(例: 相互参観や保育体験、情報交換、合同研修など)

実施済のもの
(内容 _____)

実施予定のもの
(内容 _____)

実施に向けて検討中又はこれから検討を始めるもの
(内容 _____)

【3 園児と児童の交流について】

(例: 生活科や総合的な学習の時間を活用したもの、行事への参加など)

実施済のもの
(内容 _____)

実施予定のもの
(内容 _____)

実施に向けて検討中又はこれから検討を始めるもの
(内容 _____)

カリキュラムをもとに、
年間の大まかな計画を立てます!